

タウン情報16

空襲の思い出

昭和19年、折しも久我山(元の三丁目)の大熊音次郎さんと、高井戸第二小学校の松村先生の防空壕付近に爆弾が命中して、何人かの人が土中より首だけ上に出ていた為、救助隊に掘り出されて助かりました。

翌年には、久我山の高射砲の砲弾がB29に命中して、久我山4丁目4-41に爆弾を抱いたまま落下し、民家が全焼し、一屯爆弾も不発でした。

なお、爆弾はしばらく空き地に置いてあり、私も爆弾の上で遊んだ記憶があります。

秦 暢三

タウン情報⑰

学童疎開

太平洋戦争が始まり二年余りが過ぎ、日本は次第に危なくなってきました。昭和19年、とうとう子供達の学童疎開が始まりました。高二小からは、9月5日に最初のグループ252名が宮城県栗原郡若柳町と藤里村へ疎開しました。暮らしは辛く苦しいものでした。先生も子供達も一生懸命我慢しました。いつかは戦争に勝つ日が来るとその時は日本が負けるなどとは夢にも思いませんでした。栄養失調になった人が多くいました。また、今でも疎開先の村の方との交流が続いているようです。

タウン情報⑱

60年前の久我山・宮前地域

北風の強い日は、畑の土が舞い上がり、昼はザラザラでした。

空の色が茶色になると、雑巾を用意しました。人見街道(当時は久我山街道)は砂利道・井の頭線は田んぼの中を走っていました。

ゴミの収集はチリン・チリンと鐘を鳴らして大八車を引いて集めていました。木やコンクリートで出来たゴミ箱が各家庭にあって、職員が竹かごとかき板で生ゴミを集めて回っていました。

古新聞は、焚きつけや落し紙(トイレ用紙)に利用し、ゴミにはならなかった。

糞尿は、桶にくみ取り、一部は畑にまき、残りは大八車に乗せてトラックまで運んでいました。

久我山東自治会発行 久我山昔話より抜粋